

この風景に「水の番人」が  
写っていることに誰も気づかない、  
というその価値。

英国ウエールズ地方、パーマス―  
その海沿いに、石造りの小さな建物が  
寄り添い連なる、ウエールズの西の  
源の地。「英国ナショナルトラスト  
運動」発祥の町であり、景観への意識  
が高い、そのパーマス住民の水環境  
を「気づかれることなく」守り続け  
ているのは、クボタの「液中間」を利用  
した下水処理施設である。

「過去から連続と続く風景を守り  
たい住民意識、ささやかなまでに  
小さな街の規模」それらに配慮し  
ながら、大都市と遜色ない下水処理  
はできないものなのか」

クボタは、そんな「高い壁」に、真っ向  
挑戦しています。  
下水の中の大腸菌までも除去する  
「高度な膜分離性能、大きな付帯  
設備や後処理を必要としない、便れ  
たコンパクト性」、メンテナンスが容易  
ながらも十年規模で機能を維持できる  
「実績ある信頼性」やがて、クボタの  
「液中間」を利用した下水処理施設は、  
環境意識の高い英国において初めて  
導入され、膜分離と生物処理を組み  
合わせた下水処理施設でのトップシェア  
を、今日に至るまで維持することと  
なりました。

丘に吹き込む、涼かアイルランドから  
流れてくる海風の中、老夫婦の、穏  
やかでいつも通りの生活が暮れようと  
している。彼らは、気づかない。この  
風景に包まれた施設の中の「液中間」  
こそが、自分たちの水の安全を守り  
続けていることに「まるで「水の番人」  
のように。気づかれないほどに、その  
風景にとけ込みながら。

壁がある。  
だから、行く。